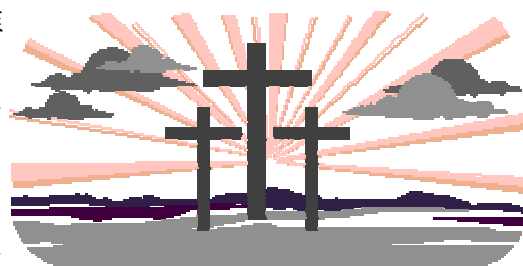


臨終から葬儀まで:カトリック信者の手引き

はじめに

この世に生を受けた私たちにとって、唯一確実なことは、いつか必ず死ぬということです。命の大切さ、心の安らぎ、死に向かう方々との関わりかたや限られた時間をより良く過ごすことの大切さなどに目を向けながら、私たちがより良い人生を生きる為に、生の延長線上にある死を元気な時に考えてみてはいかがでしょうか。



キリスト教における死と葬儀

死はいつの時代でも、また誰にとっても悲しいものです。しかし、キリストを信じる人にとって、死は永遠の命への門出であり、復活を信じる者には、悲しみのうちにも希望の時でもあります。葬儀は地上での関わりが終わったことを公に告知する場です。そこで故人の冥福を祈るとともに、遺族の悲しみをやわらげ、残された家族をはじめ、共同体、そして関わりがあった人々が一堂に集まり、キリストと共に神のうちに生きる、永遠の命への希望のメッセージを受け取る時です。

臨終から葬儀まで

教会への連絡

家族に重篤の方がおられる場合、教会事務所（0466-27-2787）に連絡をしてください。可能であれば司祭が病人を訪問し、「ゆるしの秘跡」「病者の塗油」を行い、旅路の糧である「聖体」を授け、主のもとへの旅立ちの準備をします。連絡がとれない場合は、知り合いの信者に連絡をしてください。よいパイプ役をはたしてくれるはずですよ。

病院で亡くなったとき

臨終に立ち会った人は、できれば亡くなった方が神の国に旅立つことを想いながら、神のみ手にゆだねる祈りをしましょう。

通常、病院で亡くなった後、ご遺体が病院から出るまでに、2～3時間はかかります。医師による死亡診断書の作成、死後の処置などがあるからです。

ご遺体は葬儀社に依頼して、自宅に帰ることも、教会に直接移すこともできますが時間や事情によって、葬儀社に安置をお願いすることもできます。なお病院を出る際、必ず死亡診断書を受け取ります。

病院側が葬儀社を紹介してくれるケースもありますが、キリスト教式葬儀に精通しているとは限りません。できれば教会を通して葬儀社を紹介してもらった方が、藤沢教会での葬儀経験もあり、適切な助言が受けられると思います。その旨、ハッキリと病院側に告げてください。

自宅で亡くなったとき

すでに亡くなっていると思われる場合、かかり付けの主治医がある場合には連絡をしてください。その他の場合、救急車を呼びます。警察に連絡をする必要がある場合もあります。必要な連絡の後、教会にも連絡をしましょう。

日取り

一般的には死亡翌日が通夜、その次の日が葬儀・告別式となります。日程については、ご遺族の希望が尊重されますが、火葬場にも合わせる必要がありますし、教会にも、典礼暦、各種の行事の為に、執り行うことができない日もありますので、それによる調整も必要です。

納棺

自宅での場合、教会での場合、葬儀の日程などで納棺の日時も決まります。家族、教会の代表者が納棺に立ち会い祈ります。

通夜

遺族の方々と共に、故人をしのび祈るために「通夜の儀」を行うことができます。通常は教会で行われますが、自宅や集会所でも行うことができます。

故人とのお別れにあたり、通夜および告別式に於いても「献花」あるいは「お焼香」をして故人に別れを告げますが、どちらでも選ぶことができます。

式の中で「故人を偲ぶ」お話をすることも薦められています。

式の進行に関わる司会、オルガン伴奏、聖歌のリード、献花などは教会側で奉仕いたします。

また、簡単な茶菓で、故人を偲ぶ時をもつこともできます。

葬儀、告別式

復活の希望のうちに、全てを神にゆだね、神の慰めを受け、故人に別れを告げる大切な儀式です。

「ミサ」か「ことばの祭儀」によるものがあります。遺族および参列者などの多くが信者でない場合等には「ことばの祭儀」で葬儀を行い、後日追悼ミサをすることもできます。

式の中では、故人が生前から好んでいた「聖書の箇所」や「聖歌」などを希望することもできます。

火葬と納骨

火葬の直前にお祈りをします。

地区の方も共同体の仲間として、火葬場まで同行し祈りをともにするのが望ましいでしょう。火葬のあとは、「埋葬許可書」を受取り、納骨まで、遺骨とともに大切に保管してください。

納骨

納骨の日取りや方法には、特にきまりはありません。日本の習慣にしたがい、四十九日目ぐらいに行われることが多いようです。火葬の後、直接埋葬することも可能です。

納骨の日取りや納骨日にミサを依頼される場合は、教会にご相談ください。

納骨すべき墓地が無い場合、教会にご相談ください。聖心の布教姉妹会藤沢修道院の緑深い敷地の中に、2010年、カトリックの信仰を礎にした「納骨櫃」と「合葬墓」の施設「合葬の園」を建設いたしました。

追悼の祈り

先祖に感謝し、その方々のために祈ることは、自然であり、大切なことです。

カトリック教会には特別な決まりはありません。信者は皆キリストによって一つに結ばれた者として、お互いのために祈り、助け合い、神の愛のうちに復活の希望をもって生きているのですから、死者のために祈ることは共同体としても大切なことです。（日曜日あるいは平日の）ミサの中で祈って頂くように「ミサ依頼」をすることもできます。

洗礼を受けずに亡くなられた先祖の方々も、神の前に召されたのですから、その人のために祈ることも、大切なことです。

カトリック教会では11月を「死者の月」として、亡くなられた方々のために特別に祈ります。

また藤沢教会では、日本の習慣にしたがい春分の日、秋分の日に合同追悼ミサを捧げます。どなたでも、ともに祈りを捧げることができます。

詳しいことは、教会事務所にご相談ください。



葬儀の費用

藤沢教会では、和田葬儀社と団体割引契約を設けていますが、勿論、他の葬儀社選択もご遺族の自由です。また遠方で亡くなられた場合もご相談ください。

教会への謝礼

教会として通夜、葬儀、追悼式への謝礼の金額について、きまりはありません。感謝の気持ちをその方の生活にあった額で「献金」としてあらわしていただければ幸いです。教会側の奉仕した者への個別の謝礼は必要ありません。

種々ご事情のある場合は教会事務所にご相談ください。

参考

病者の塗油

重い病気になった時、大きな手術を受ける時など病床にあるカトリック信者は、司祭から「病者の塗油の秘跡」を授けていただきます。同時に「ゆるしの秘跡」も受けられます。

緊急洗礼

信者でない人が受洗を望んでいる場合は、病床に司祭を招いて、洗礼を授けてもらうことができます。私たち信者にとって大切なことは、本人が洗礼を望んでいるかどうかを日頃から確かめておくことです。

司祭を招く余裕がなく、日ごろから洗礼を望んでいる人に対しては誰でも、たとえ洗礼を受けていない人でも、洗礼を授けることができます。ただし「授けた」後は速やかに教会にその旨を届ける必要があります。

家族のうちの自分一人だけが信者の場合

いちばん良い方法は、生前、家族や身近な方の前で、自分の葬儀はカトリック教会で執り行ってほしいと希望を伝え、教会への連絡、相談などを教会の親しい友人に頼っておきましょう。

お寺で管理する家族の墓に納骨する場合には、仏式の葬儀・戒名などに対して条件を付けられることもあります。それを受け入れても差しつかえありません。

家族への覚え書きは遺言状のように法律的な拘束力はありませんが、特に、家族親戚の方には、記載されていることを遺言状のように、尊重され、実行していただけることを教会は希望します。

家族への覚え書き

名 前	
生 年 月 日	
受 洗 年 月 日	
受 洗 教 会	
洗 礼 名	
好きな聖書の箇所 1	
2	
3	
好きな聖歌 1	
2	
3	
教会への連絡	(緊急のとき)希望する ・ 希望しない
病者の秘跡	(緊急のとき)希望する ・ 希望しない
お見舞い	家族親族 ・ 司祭 ・ 誰でも (自分の意思が伝えられない場合でも)希望する・しない

延命処置	(脳死状態または昏睡状態になった時) 希望する ・ 希望しない
葬儀の場所	(教会)・自宅・斎場・その他()
埋葬場所	()墓地 ・ 霊園 ・ 納骨堂 合葬の園 ・ その他()
葬儀社	教会の紹介 ・ ()葬儀社 特に希望なし
飾ってほしい花	
その他葬儀の希望	
家族への希望	
教会への希望	
その他の希望	
記載日と署名	()年()月()日

メモ

改訂版:2013年3月31日

発行者:カトリック藤沢教会

〒251-0025

藤沢市鵜沼石上1-1-17

Tel:0466-27-2787

Fax:0466-27-2790

(緊急の場合はいつでもご連絡ください)